

救急医学		講義	教授 千明 政好	
科目カテゴリー	救急救命士コースの専門分野		科目ナンバリング	13341301

1. 授業のねらい・概要

救急医学分野のうち、特定行為を必要とする救急救命処置についての法律・倫理的・メディカルコントロール・医学的観点に鑑み、心肺蘇生の必要性や救急救命処置の医学的効果について学ぶ。また、拡大を続ける救急救命士の特定行為についてその変遷・歴史的な背景を学ぶ。

2. 授業の進め方

参加型授業を提案し、双方向的な授業を実現できるようにする。前週に実施した授業を確実に理解することとする。理解を深めるよう画像・動画も使用した説明を行うとともに、学生自ら習得した知識を活用したアクティブラーニングによる授業展開を行う。

3. 授業計画

回	授業内容	授業形態	担当
1	救急救命士の行う救急救命処置の内容・特定行為	講義	千明政好
2	心原性心肺停止の病態と非心原性心肺停止の病態	講義	千明
3	心肺停止の病態と救命の連鎖	講義	千明
4	救急救命士における心肺蘇生と病態、不整脈、心不全について	講義	千明
5	救急救命士におけるインフォームドコンセント、倫理について	講義	千明
6	救急救命士における気管挿管の実際と効果	講義	千明
7	救急救命士における静脈路確保の実際と効果	講義	千明
8	第1回～第7回までの講義のまとめ および 小試験1回目	講義	千明
9	救命に使用する薬剤投与の適応と効果	講義	千明
10	救急救命処置におけるメディカルコントロール	講義	千明
11	意識障害の病態と治療	講義	千明
12	各種ショックの病態と治療	講義	千明
13	救急医療における死、終末期医療と臓器移植などについて	講義	千明
14	院内で使用する薬剤について	講義	千明
15	1回～14回までのまとめ および 小試験2回目	講義	千明

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

1) 予習（必要時間：約 60 分）

授業計画を参考に、該当授業箇所について予習すること。

2) 復習（必要時間：約 60 分）

テキストの授業該当箇所と配布資料などをもとに復習し理解を深めること。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

1) 筆記試験

小試験2回、期末試験1回、各試験実施直後に解答と解説を行う。

2) 課題

毎回授業の初めに15分程度の予習を課す。すべての項目を記入し提出すること。授業中に内容を説明する。

6. 授業における学修の到達目標

救急医学分野のうち、病院前救急医学で、救急救命士が行うもっとも重要な重度傷病者に対する特定行為、心肺蘇生に関する病態・処置・法的・倫理的問題について完全に理解できる。

到達目標

- 1) 救急救命士として変化し続ける救急救命処置と特定行為の病態を理解できる
- 2) 救急救命士処置の法的な背景、特定行為の要件の理解できる
- 3) 特定行為とメディカルコントロールの理解できる
- 4) 処置により病態の改善を予見するなど適切な思考判断を下し得る知力と思考力の獲得ができる

7. 成績評価の方法・基準

1) 成績評価の方法

筆記試験 (100 %)

- イ) 小試験 2 回 (50 %)・期末試験 (50 %)
- ロ) 合計点数の 60%以上を合格とする。
- ハ) 再試験は実施しない。
- ニ) 受験資格として 3 分の 2 以上の出席かつ、全ての課題が提出されていること。

8. テキスト・参考文献

救急救命士標準テキスト編集委員会：改訂第 10 版 救急救命士標準テキスト（へるす出版）2020.

JPTEC 協議会編著：改訂第 2 版補訂版 JPTEC ガイドブック（へるす出版）2022.

適宜指定する教材

9. 受講上の留意事項

授業時間中はスマートフォン使用禁止、イヤホン使用禁止、帽子着用禁止とする。従わない場合は退室させ欠席扱いとする。授業中にもかかわらず学生同士の会話等がひどい場合は授業妨害と判断し退出させ欠席扱いとする。

テキストは毎回の授業に必ず持参すること。また、参考文献は適宜紹介する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当有無

該当する。本授業は、大学病院救命救急センターや集中治療室等における 20 年以上の実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。救急救命士コースの専門科目である。